

## 活動報告

団体名	大阪ボランティア協会
活動名	令和元年10月台風19号災害<いわき>へのボランティアツアー事業 12月
活動期間	2019/12/1 ~ 2019/12/31
活動の成果	<p>台風19号災害は広域的な被害をもたらし、各地で災害ボランティアセンターを開設しても、情報発信や交通の便等の影響で運営者や活動するボランティアが不足している状況に陥る地域もあった。当協会が募集・送り出した職員やボランティアが応援に行くことで、少しでも支援につながったと考えている。特に活動先の選定にあたり、各関係機関（既に活動先に入っているNPO等）に聞き取りを行い、遠方であることよりも支援の手が足りていない被災地での活動を選択した。また日ごろ社会貢献活動を担当している企業の担当者と情報交換や広報等のできる環境づくり（チーム化）を行った。そうして支援の手が足りていないボランティアセンターで企業人ボランティアをつなぎ、被災者支援活動を行うことで、継続したかわりや自分事（社会化）にできる人材を育成、現地の支援活動につながった。また、わかやまNPOセンターが取り組んでいる「台風19号被災地に梅干を贈ろうプロジェクト」に協力をし、いわき市災害ボランティアセンター、いわき市の被災者に配布調整を行った。広域災害であったこともあり、被災市町の社会福祉協議会などの刻々と変化する情報を集めて発信することで、たいへん多くの被害が発生していることや、多くのボランティアが必要とされていることを市民に知ってもらうことができた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>台風19号による住家被害数は、全壊・半壊・一部損壊を合わせて福島県が約20,792件（消防庁情報：2月12日9:00現在）となっています。これは全国の被害状況の中で最も多い数です。メディア等の影響もあり、他県での活動は非常に活発でしたが、被害状況には違いがあり、支援状況にも大きな違いが生まれました。もちろん、台風19号の被害は一部損壊や床下浸水がほとんどで、亡くなる方が多かったこれまでの災害とは違うかもしれません。それでも、床下が浸水して床板や壁板を剥がす必要があるにもかかわらず、お金がなかったり工務店の順番待ちだったりして、直すことのできない人がまだ大勢いらっしゃいます。カビに侵されて朽ちていく家に住まわざるを得ない人の気持ちを考えると、自分の無力を嘆かずにはられません。今回、わずかでもこうした人々のお役に立つことができたのは、広域な災害にも目を向けていただき、ご寄附いただいたみなさまのおかげです。心よりお礼申し上げます。</p>

（活動のようす）

